

平成十五年産米「転作」の 取り組みは



高野 初雄 議員

名である。未達成者数は、182名で、未達成農家へ協力戴くよう指導したが、飯米が足りないと言うこと等で協力いただけない状況もありました。

飼料作物とソバの面積及び戸数は

本町の15年度の生産調整面積は、1245ヘクタールで、今年から個人達成ということになってきたが、その結果は。

高野議員

区分によって、補償金額に差があり、とも補償と地域達成までは同額である。経営確立では、飼料作物が4万円・ソバが2万円、ソバと飼料作物では、2万円の差があるが、飼料作物とソバの面積及び戸数はどのようになっているのか。

内容については

町長

飼料作物の面積は、320・2ヘクタール・戸数は1189戸、ソバの面積は、349・5ヘクタールの1018戸となっており、内経営確立の4万円に該当する面積は、318ヘクタールの戸数で760戸である。

十六年度の生産調整は

高野議員

16年度の全国の米生産目標数量は、857万トンであり、減反面積に換算して、106万ヘクタールに決定されているが、本町への配分はどのようになっているのか。

配分に付いては

町長

16年度は、転作面積の配分から、生産してよい米の数量「生産目標数量」の配分が変わり、農家へは生産数量を、面積に換算した作付面積を配分することとなった。本町へは、十二月十五日に、農林事務所において配分がなされたので、出来るだけ早く、農家への配分を通知するよう努力したい。

二十年度以降の助成金は

高野議員

近い将来、20年度以降は、転作助成金がなくなるのではないかと心配の声を聞くが。

存続を訴える

町長

現在のところ、助成金はどうなるのか、見当がつかない状況であるので、機会あるごとに、助成金

制度の存続を訴えていきたい。

あすばる物産館関係について

高野議員

オープン以来、3年が経過したが、経営状況はどうなのか。又出荷体制について、最近市場からの仕入れ品のなかに、会員の農産物と競合する品物が見受けられるので、競合しないようできないか。



あすばる物産館

重複しないように指導

町長

経営状況については、少しずつではあるが、毎年伸びており、黒字経営である。市場からの仕入れについては、地元産品を中心に販売していくことを基本とし、重複することのないよう仕入れを指導する。

管理職手当に付いて

高野議員

各自治体において、財政健全化対策及び、歳出削減策のため、管理職手当の引き下げ・見直し等検討されているが、本町の場合はどうか。

減額については検討

町長

管理・監督の地位にある職員に支給するもので、該当者は23名で、平成十四年度総支給額は、115万5486円である。管理職手当の減額については、時代の流れにそって、十分検討していく。

面積は達成

町長

目標面積1245ヘクタールに対して、転作達成面積1264・8ヘクタールの101・6%で、個別達成者数は2132